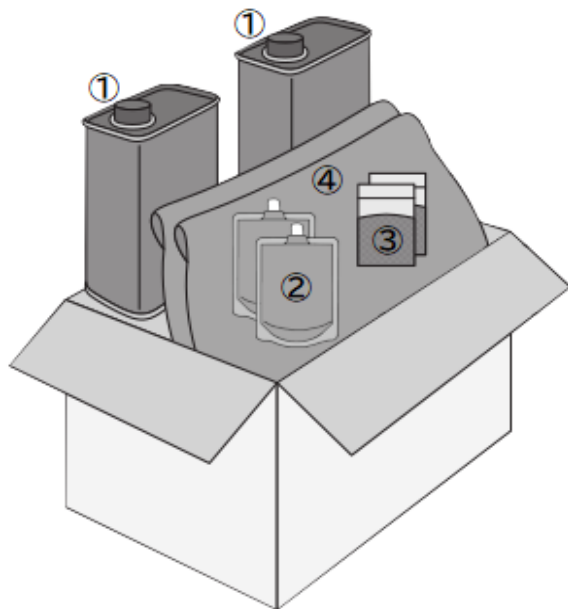


レッドコートRGキット取扱説明書

ご使用前に、必ずこの「取り扱い説明書」をお読みください。

1. 梱包内容

REDCOAT RG キットの梱包内容は下図及び下表のとおりです。



名称	容量	数量
① モルタル用樹脂	1.4Kg/缶	2 缶
モルタル用骨材、着色剤と混ぜて樹脂モルタルを作ります。		
② 着色剤	45 g/容器	2 個
モルタル用樹脂、モルタル用骨材と混ぜて樹脂モルタルを作ります。		
③ 硬化剤(夏・冬用)	42 or 70g/袋	2 袋
モルタル用樹脂に添加して使用します。		
④ モルタル用骨材	7Kg/袋	2 袋
モルタル用樹脂、着色剤と混ぜて樹脂モルタルを作ります。		

2. 施工温度の範囲

施工可能な温度範囲は、下地温度 0℃～ 35℃です。

3. 下地種類

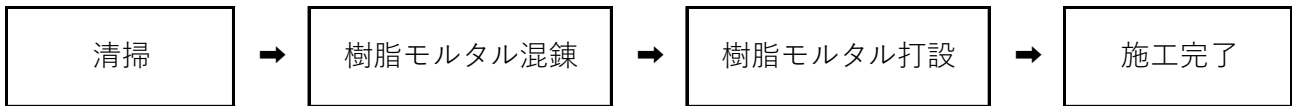
3-1 施工可能な下地

下地種類	備考
アスファルト舗装	
コンクリート舗装、コンクリート床版	

3-2 施工できない下地

下地種類	備考
ポリマーセメント系	エチレン酢ビ系、アクリル系、SBR系等
エポキシ樹脂系、ウレタン樹脂系	塗膜、樹脂モルタル
アスファルト系	乳剤、防水材、常温合材、パッチング材
カチオン系	カチオンシーラー等
塗料	各種塗料、ロードマーキング

4. 施工フロー



5. 施工方法及び注意点

5-1 下地処理・養生

下地処理・養生	施工方法	<p>下地処理は、堅固で清浄な下地の形成を目的として行います。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 下地の脆弱部や旧補修材等はハツリ取るなどして完全に除去します。 また、コンクリート下地や鋼板下地の場合は、ディスクサンダー等で表面を研掃し、脆弱部（レイトンス等）や 錆・黒皮等を全て除去します。2. 下地面に油脂分・水分がある場合は完全に除去します。 水分はウエス等で拭いた後、自然乾燥するか、ブロアー、ガスバーナー等で強制乾燥させます。3. 集塵機等でゴミや埃を除去し、下地表面をきれいに清掃します。4. 補修部分周辺をガムテープ等で養生します。
	注意点	<ul style="list-style-type: none">・下地処理が不十分だと剥離や未硬化の原因となります。・油脂分や水分が存在すると、剥離や未硬化の原因となります。・ガスバーナー使用時は下地を傷めないように十分注意します。・ガスバーナー使用の際は、近くに材料を置くことや、近くでの樹脂取り扱い作業（調合、塗布、打設等）は行わないで下さい。・ゴミや埃が存在しても未硬化や剥離の原因となる場合がありますので除去して下さい。・養生をきちんとなしないと、補修部分以外を汚したり、補修部分周辺の美観が悪くなります。

5-2 樹脂モルタル混練

樹脂 モルタル 混練	施工 方法	<p>この作業は下地処理完了後に行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水分や油脂分がないことを確認し、ゴミや埃がないように清掃します。 2. 下地温度を測定し、0°C～35°Cの範囲であることを確認します。 3. モルタル用樹脂、モルタル用骨材、着色剤、硬化剤を準備します。 4. モルタル用樹脂缶に硬化剤と着色剤を投入後、1分程度よく振り樹脂と硬化剤を混練します。 5. モルタル用骨材は袋の上面をハサミ等で開封し、内容物が出ないように注意しながら空練し、骨材塊がないようにほぐします。 6. モルタル用骨材1袋にモルタル用樹脂液を全量投入した後、内容物が出ないようにしっかりと骨材袋を掴みながら、骨材の塊等が残らないよう樹脂と骨材を揉みほぐすよう混合し、均一な樹脂モルタルとします。
	注意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・水分、油脂分、ゴミ、埃等がある場合は未硬化や剥離の原因となります。 ・下地温度が0°C未満の場合は、別売りの硬化促進剤を使用して下さい。また、35°Cを超える場合は使用をお控え下さい。 ・モルタル用樹脂は、骨材へ添加する前によく振って均一にして下さい。攪拌が不十分な場合には、未硬化等の原因となることがあります。 ・樹脂と骨材の混練が不十分な状態で使用すると、未硬化や剥離等の原因になります。 ・袋の端部は樹脂と骨材が混ざり難いため、特に注意を行い混練を行ってください。 ・電動ハンドミキサー及び練りバケツは乾燥した清浄なものを使用します。他の材質の付着は硬化不良や異物混入の原因となります。 ・攪拌で使用した道工具は、洗浄剤（アセトンやラッカーシンナー等）で洗浄し乾燥させます。 ・モルタル用樹脂缶を振った後に蓋を開ける場合には、内圧が上がり内容物が噴き出す場合がありますので、注意して開けて下さい

5-5 樹脂モルタル打設

	<p>施工方法</p>	<p>この作業は、樹脂モルタル混練後に行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 袋の中を覗き、十分混合ができていることを確認します。 2. 得られた樹脂モルタルを補修箇所に打設し、コテ等で下地に樹脂モルタルが十分にいきわたるようにコテ圧をかけ素早く敷均します。 30mm より厚くしたい場合は、2 回以上に分けて施工します。 2 回以上に分けて施工する場合は樹脂モルタルが硬化したのを確認後、表面に油脂分、水分、ゴミ、がない状態で樹脂モルタルを塗り重ねます。 3. 硬化養生をし、樹脂モルタルの硬化を確認したら完成です。 (硬化は、指で押してへこまなくなった時点が目安です) ※表面にタック（若干のべとつき）が残ることがあります。 4. 使用したコテ等はシンナーやアセトン等で洗浄します。 5. 周囲にテープ養生した場合、撒き砂散布が終わった箇所から、テープを剥がします。
<p>樹脂モルタル打設</p>	<p>注意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樹脂モルタルの塗布厚が薄すぎると、未硬化や剥離等の原因となります。 ・下地に凹凸がある場合は、凹部に樹脂モルタルが充填されるように塗布します。充填が不十分だと剥離の原因になります。 ・シンナー等の溶剤や水等が混入した場合、未硬化や剥離の原因となるだけでなく目的とする物性も得られません。 ・小さい塗布面積が複数箇所点状する場合、途中で樹脂モルタルが硬化する場合があります。 ・ゲル化寸前(粘度が高くなった状態)或いはゲル化した樹脂モルタルを使用すると、接着不良や仕上がり不良になります。 ・硬化体でもシンナーや溶剤等で脆弱になるため、接触しないようにして下さい。 ・一度に 30mm を超えて打設すると、物性が低下する可能性があります。 ・塗り重ねをする際、表面に油脂分、水分、ゴミ、埃があると剥離の原因となりますので、必ず取り除きます。 ・周囲にテープ養生を行った場合、樹脂モルタル完全硬化後は非常に剥がしにくくなる為、硬化前に取り除いてください。 ・塗り重ねする場合は、当日中に行います。 翌日以降に塗布を行う場合は、清掃後、水分、油脂分、ゴミ、埃がないことを確認清掃した後、プライマーの工程から再度実施します。

5-6 硬化養生

樹脂 モル タル 打 設	施 工 方 法	1. 硬化確認は、混練時に袋に付着している樹脂モルタル等でまず確認し、固まっているようなら、施工箇所を直接触るなどして確認してください。
	注 意 点	樹脂モルタルは、混練後徐々に粘度が高くなり、最終的に固化します。敷均し後は表面に触れたりすると未硬化が生じたり、硬化後に傷として残ることがあります。 誤って靴跡などをつけないように注意して下さい。

6. 夏期、冬期の施工について

6-1 夏期の施工の場合

夏 期 施 工	施 工 方 法	1. 下地温度が 35℃を超える場合には、硬化不良等が生じる可能性があるため使用を避けます。 2. 気温が高い時は硬化が早く進行します。 3. 一度に取り扱う量を少なくすることで、途中で硬化してしまう等のロスを少なくできます。 4. 材料を小分けにする場合は、樹脂液は缶を振り、骨材はよく揉みほぐし均一にしてから、配合比率を確保して行って下さい。 5. 材料は使用直前まで日陰で保管を行ってください。
	注 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・樹脂や骨材の小分け時に攪拌が不十分な場合、樹脂性能の低下や硬化不良が発生する場合があります。 ・硬化が早く進行するため、標準使用量で配合しても使用途中で硬化することがあります。 ・塗装個所が複数点在する際は、途中で樹脂モルタルが硬化する恐れがありますので、特に注意して下さい。 ・温度が高いと樹脂液缶の内圧が高くなり、内容物が噴き出す場合があります。蓋を開ける際には十分に気をつけて下さい。

6-2 冬期の施工の場合

夏 期 施 工	<p>【樹脂モルタル】</p> <p>下地温度が 0°C～ 10°C の場合は、冬期用硬化剤を①或いは②のように添加し使用します。</p> <p>① 均一にしたモルタル用樹脂の缶内（1 缶）に冬期用硬化剤（1 袋）を添加した後、硬化剤が溶解するまで缶をよく振り、上記のように樹脂モルタルを混練します。</p> <p>② 冬期用硬化剤（1 袋）をモルタル用骨材（1 袋）に添加した後、空練をして均一にします。</p> <p>その後モルタル用樹脂液（1 缶）を骨材に投入し、上記のように樹脂モルタルを混練します。</p>
----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【注意事項】

■ 火気について

- ・モルタル用樹脂は、消防法に定める危険物第四類第一石油類（引火点 21°C 未満）に属する引火性液体です。
取り扱い時（保管を含む）は、タバコ・ライター等の火気には十分注意を払うとともに、熱や直射日光を避けて保存して下さい。
- ・保管場所、施工場所には常に消火器を用意しておいて下さい。
- ・硬化剤も火気厳禁です。

■ 樹脂液について

- ・モルタル用樹脂に接触すると皮膚炎を 起こすことがあります。
必ず保護手袋を着用し、接触しないようにして下さい。
また、眼刺激性がありますので、必ず保護メガネを着用し眼を保護して下さい。
- ・皮膚に付いたときは、布などで拭き取ってから石鹼水でよく洗って下さい。
- ・揮発分に有害な毒性はありませんが、換気をよくし、極力吸入しないようにして下さい。
必要により保護マスクを着用下さい。
- ・眼に入った場合は直ちに清浄な流水で 15 分以上洗浄し医師の診断を受けて下さい。
- ・飲み込んだ場合は、無理に吐き出させず、医師の診断を受けて下さい。
- ・詳しくは SDS をご覧下さい。
- ・樹脂液及び樹脂モルタルは硬化時に高温となりますので、火傷に注意して下さい。
また、刺激臭を伴う煙が生じる場合があります。
そのような時は、硬化反応が終わるまで周囲に影響がない屋外等に放置し、煙を吸い込まないようにして下さい（第三者を含みます）。
- ・粘度調整や硬化時間の調整は行わないで下さい。
また、同様の目的のためにシンナー等で薄めることは絶対にしないで下さい。
- ・水が混入しないように十分注意して下さい。

■ 骨材について

- ・硬化不良や接着不良となりますので、骨材は絶対に湿らさないように取り扱って下さい。
 - ・指定された骨材のみでの使用をお願い致します。
- 性能の低下や硬化不良が発生する為、指定外の骨材での代用はできません。

■ 硬化剤について

- ・硬化剤は、衝撃や摩擦が加わらないように取り扱って下さい。
- ・また、火気や高温発生のおそれにある場所では取り扱わないで下さい。
- ・保管や計量時に使用する容器の材質は、ステンレス／ガラス／ポリエチレン等を用い、鉄／銅合金／鉛／ゴム等は避けて下さい。

■ 工具などの洗浄について

- ・樹脂或いは樹脂モルタルが付着した道具類の洗浄は、アルコール等で硬化前の状態であれば容易に洗浄可能です。
 - ・洗浄後の道具類を使用する場合は、よく乾燥させてから使用して下さい。
- 樹脂や樹脂モルタル溶剤がに混入すると、未硬化や剥離などの原因となります。

■ 保管について

- ・保管時は低湿で風通しのよい冷暗所に保管し、出荷後 6 ヶ月以内に使用して下さい。
- ・保管場所は火気厳禁とし、関係者以外の取り扱いが出来ない状態で保管して下さい。